

平成27年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	プロジェクトマネジメント論		授業コード	C166451
担当教員名	泉 丙完		科目ナンバリングコード	
配当学年	3	開講期	後期	
必修・選択区分	選択	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	教わるだけでなく、自ら新たな新製品開発プロジェクトを提案できること。			
受講心得	講義では携帯・私語は厳禁 ただし、演習では活発に討議や発表に参加すること			
教科書	参考資料配布			
参考文献及び指定図書	先制型プロジェクトマネジメント、長尾清一著(ダイヤモンド社) VEとTRIZ、澤口学著(同友社)			
関連科目	経営学入門、情報メディアとビジネス、eビジネスマーケティング論、インターネット広告論、eビジネス			

授業の目的	新製品開発における成否は、新製品開発のプロジェクトマネージャに大きく依存する。本講義の目的は、新製品開発のプロジェクトを立ち上げるにあたり、プロジェクトマネージャーとして各要素を適切に管理・運用するための知識や技術を習得することである。また、本講義においては、知識を習得するだけでなく、グループ毎に具体的な製品開発提案や疑似運用を行い、ディスカッションを通して実践的なプロジェクトマネジメントの疑似的に経験するねらいもある。
授業の概要	本講義では、他社に対し優位に立つために、市場と顧客、製品とサービス、提供方式をうまく位置づけ、新たなアイデアの発想、スケジュール管理、リスクや契約の管理、外部関係者との交渉を学ぶ。 具体的には、いくつかのグループに分かれ、具体的な製品を対象に、講義で学んだ手法を基に、新たな製品開発提案を行い、各グループでディスカッションを行う。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週： プロジェクトマネジメント概説、産業技術概要、商品企画の位置づけ、グループ分けとテーマ商品の選定。	1回～15回 資料配布 プレゼン資料作成用PC必要
第2週： SWOT分析等の市場マクロ環境分析手法の説明、グループ単位でテーマ商品での演習。	
第3週： グループ単位での市場マクロ環境分析結果発表、ディスカッション。	
第4週： QFDによる品質機能展開手法の説明、グループ単位でのテーマ商品での演習。	
第5週： グループ単位でのQFD検討結果の発表、ディスカッション。	
第6週：	

VEによる原価低減/価値向上手法の説明、グループ単位でのテーマ商品でのVE演習。		
第7週： グループ単位でのVEの検討結果の発表、ディスカッション。		
第8週： TRIZによる商品アイデア発想手法の説明、グループ単位でのテーマ商品での演習。		
第9週： グループ単位でのTRIZに基づくアイデア検討結果の発表、ディスカッション。		
第10週： 情報積算法による定量的商品評価決定手法の説明、グループ単位でのテーマ商品での演習。		
第11週： グループ単位での商品評価決定の検討結果の発表、ディスカッション。		
第12週： 商品企画を行うために必要な知財に関する基本事項の説明。		
第13週： 商品企画を行うために必要な安全規格や各国の規制等の基本事項の説明。		
第14週： グループ単位での商品企画提案の全体発表、ディスカッション。		
第15週： 授業内容の確認、提出レポートの確認。		
第16週： 試験により、学習内容の習得状況の確認		
授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	
地域志向科目		
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	新たな新製品開発のプロジェクト立上げに興味があること。
【知識・理解】	将来、新製品開発プロジェクトマネージャになるための基礎知識
【技能・表現・コミュニケーション】	新製品開発プロジェクト運営委のためのコミュニケーション能力を有する。
【思考・判断・創造】	講義、演習を通して新たな新製品開発プロジェクトの提案をイメージできる。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。	20点			
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	20点			
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。			30点	
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。			30点	
(「人間力」について)				
<p>※以上の観点到、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。</p>				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	新製品開発プロジェクト提案の発表と最後の総合テストの総合評価による。 また、出席状況・受講態度も考慮する。
発表・その他 (無形成果)	グループ単位での新製品開発プロジェクト提案の発表